

令和6年度 鶴巻温泉春まつり 検証報告

令和6年5月
産業振興課

鶴巻温泉駅にぎわい創造検討懇話会では、駅周辺のにぎわい創造に向け、地域の様々な立場の方々と懇話会を立ち上げ、ワークショップ等を通して、まちの魅力を高めるためのアイデアや意見を出し合っています。

懇話会では「地域住民や弘法の里湯への来館者が、まちに関わる機会をつくる必要があるのではないか」等の意見が出されました。

今回の取り組みでは、鶴巻温泉駅前のみで開催されてきた「鶴巻温泉春まつり」の会場を分散することで、地域住民や鶴巻地区を訪れる者の回遊性向上や滞留時間増加につながるか、また、公共施設の活用方法等について実験及び検証を行うものです。

1 課題と検証の方向性

鶴巻温泉駅周辺には、弘法の里湯、宮永美術館などの公共施設があり、年間10万人以上の来訪があるものの、公共施設の在り方、駅周辺の回遊性が乏しいなどの課題が懸念されている。そこで、次のとおり検証を行うもの。

(1) 回遊性及び滞在時間の向上

祭りの会場を従来のメイン会場（鶴巻温泉駅北口広場）のほか、数か所に分散し、来場者の休憩場所やイベント・出店場所を増設することで、北口広場から人が回遊するか、滞在時間の増につながるか検証する。

(2) 公共施設の活用

駅周辺の公共施設を、本来とは異なる目的で活用することで、コミュニティ拠点としてのニーズを測る。

(3) 休憩場所の増設によるマナー改善

鶴巻温泉駅北口広場周辺のマンションでは、祭りによるにぎわいを期待する一方で来訪者のマナーの悪さに苦慮しているため、休憩場所を設置することにより改善につながるか検証する。

2 実施日時

令和6年4月29日(月・祝) 11時から18時

3 検証内容

(1) 会場の分散

ア 鶴巻温泉北口広場から人が回遊するよう、謎解きクイズラリー（会場内5か所を回り、クイズに正解することで景品を進呈）を実施。

イ つるまき北公園にて、子ども向けイベント（丸太切り体験、カプセルトイ）を実施。

ウ 弘法の里湯からつるまき北公園につながる温泉横丁での飲食出店、畳ベンチの設置。

(2) 公共施設の活用

ア 弘法の里湯第1駐車場をキッチンカーの出店や休憩場所、子どもの遊び場（カンナくずプール）として活用。

イ 宮永岳彦記念美術館市民ギャラリーで市民向けワークショップを開催。

(3) 休憩場所の増設

弘法の里湯駐車場とつるまき北公園にテーブルとイスを設置し、温泉横丁にベンチ設置。

4 検証場所

(1) 鶴巻温泉駅北口駅前広場（例年の会場は広場のみ）

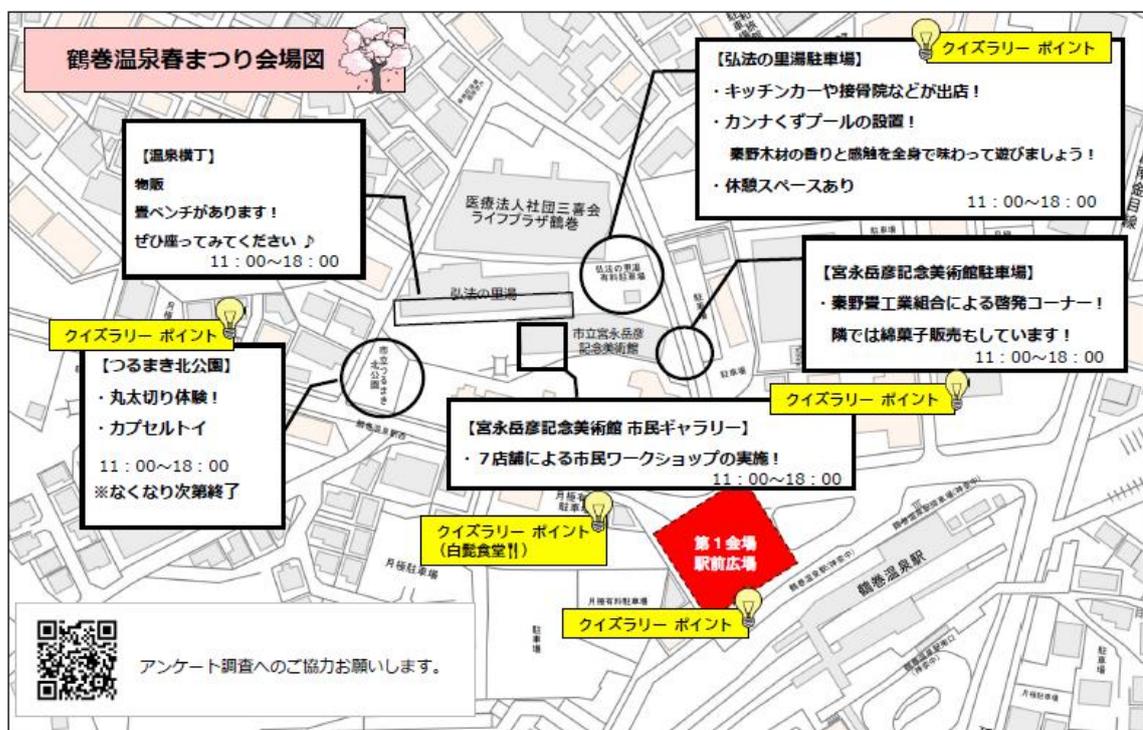
(2) 弘法の里湯駐車場

(3) 弘法の里湯温泉横丁

(4) 宮永岳彦美術館駐車場

(5) 宮永岳彦美術館市民ギャラリー

(6) つるまき北公園



※会場案内（当日配布）

5 検証方法

(1) スナップショット調査

計測シート		■場所【里湯駐車場・市民ギャラリー・横丁・公園】											■時間【 : 】					
滞在・通行	1人・家族・グループ・団体 ※グループ：家族以外の少人数グループ	性別			年齢				属性				状態		動作			
		男性	女性	わからない	幼児 ～ 小学生	中学生 ～ 大学生	社会人	高齢者	里湯利 用者	登山客	祭りに参 加者	わから ない	座って いる	立っ てい る	会 話	飲 食	休 憩	
1.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11.	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

1時間ごと（11時から18時まで）に、会場内にいる滞在者と通行者の人数を計測し、その人の状態も合わせて記録する。会場は弘法の里湯駐車場、温泉横丁、市民ギャラリー及びつるまき北公園の4か所で、職員の見目視により計測。

調査項目
①滞在・通行 ※滞在者とは3分以上対象地にとどまっていると思われる人とし、 通行者はそれ以外とする。
②属性（1人・家族・グループ・団体）
③性別
④年齢
⑤属性（里湯利用者・登山客・祭りに訪れた人）
⑥状態（座っている・立っている）
⑦動作（会話・飲食・休憩）

(2) アンケート調査

Googleフォームを使用した電子回答と調査票を配布して回収する調査を行った。回答フォームの二次元コードを休憩場所に設置し、利用者への回答を求めた。また、学生ボランティアの協力により、会場内に滞在している人を対象に調査票への記入を求めた。

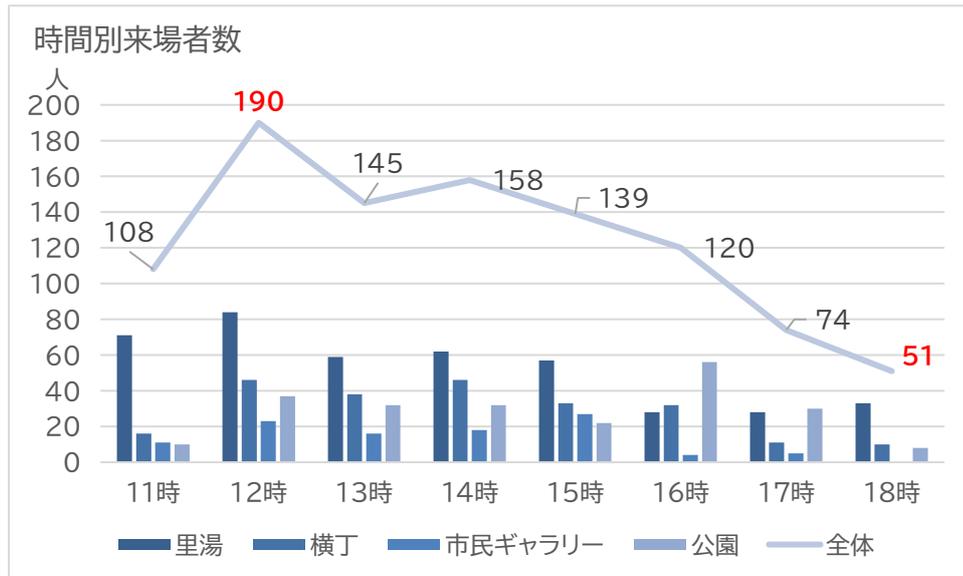
回答数：63（うち電子回答12）

6 検証結果

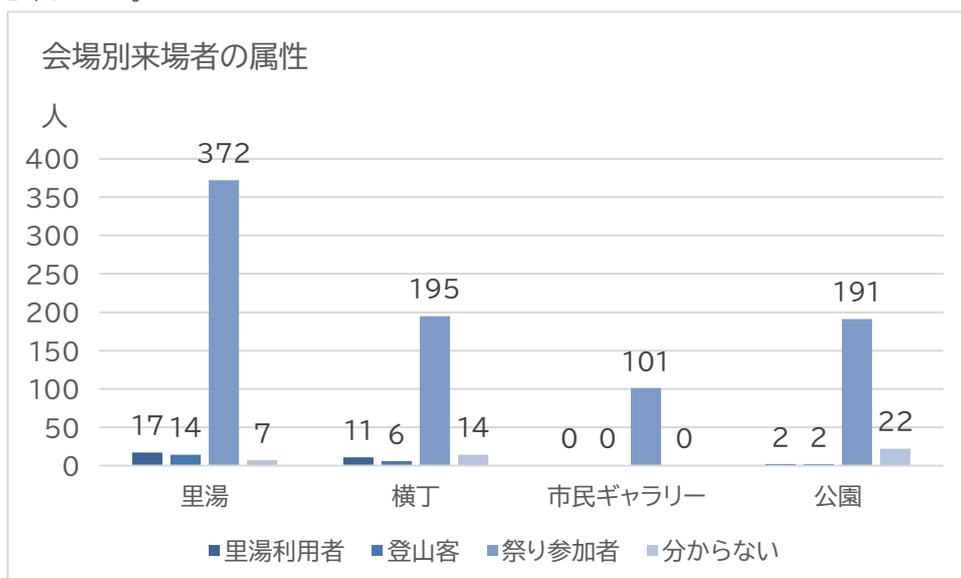
(1) 4会場の状況

ア スナップショット調査結果では、4会場の来場者数は、12時時点の190人が最大で、祭り終了時刻の18時では来場者51名となった。

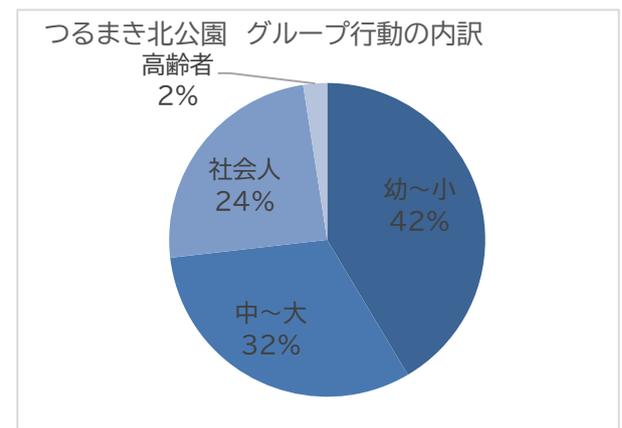
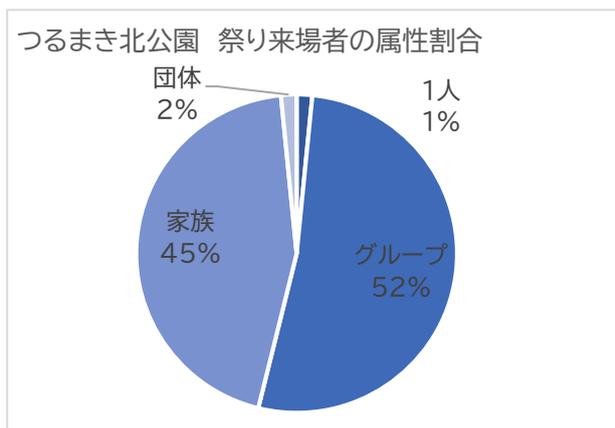
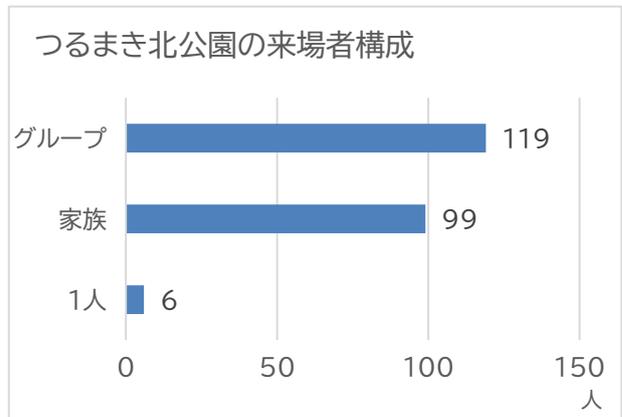
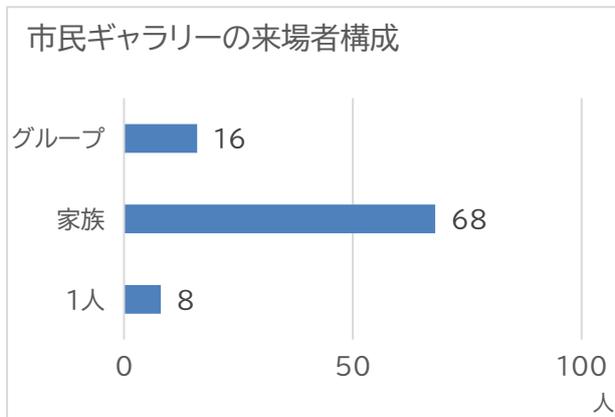
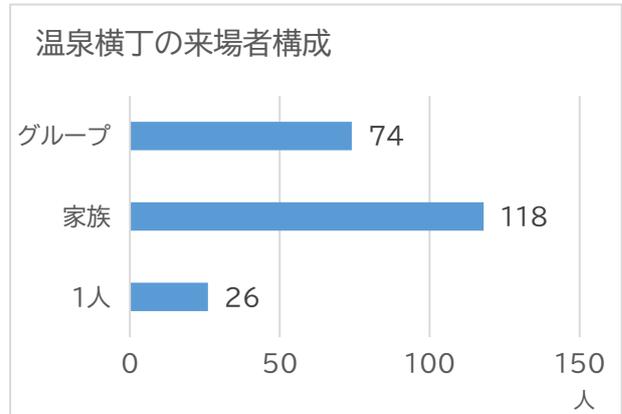
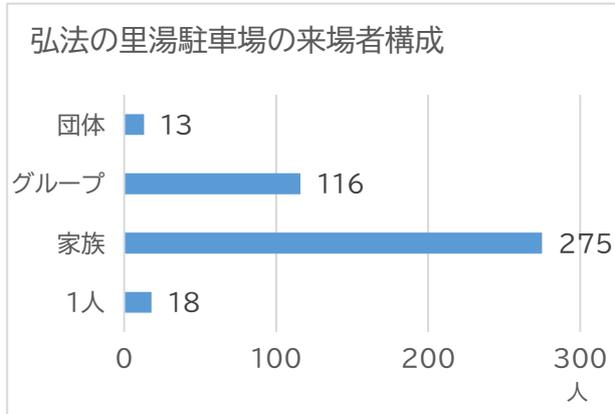
弘法の里湯会場の来場者が1日を通して多く見られたが、その他3会場も途切れなく来場があり、温泉横丁では、休憩や移動する者が常に一定数確認され、回遊性がみられた。



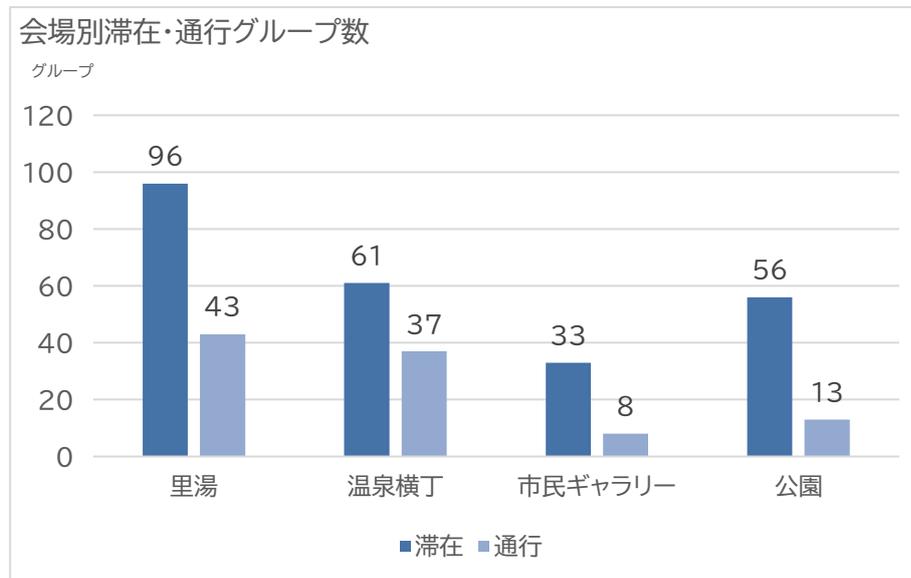
イ 会場別に訪れた人の属性を見ると、すべての会場で祭り参加者が多数を占めた。



ウ 4会場の来場者を構成別で見ると、家族での行動が多く、中でも、つるまき北公園では、子ども向けのアトラクションを実施したことから子ども同士のグループが多かった。



エ 滞行者、通行者数の調査結果からは、すべての会場で滞行者が多いことが分かった。

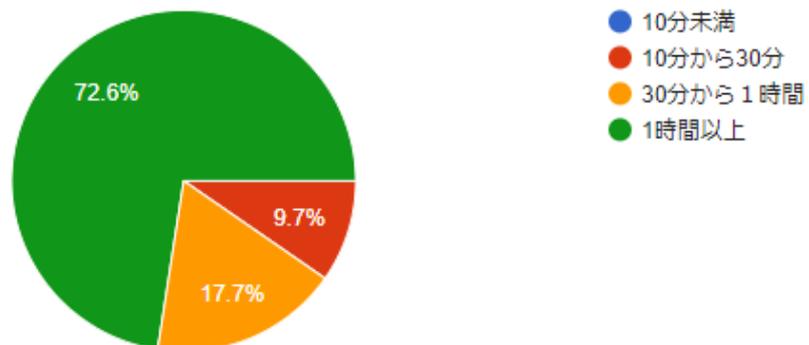


※行動グループ毎のカウントのため、来場者数とは異なる。

オ アンケートによる滞在時間の調査では、73%が1時間以上滞在するなど、会場の分散は滞留時間の増加に効果があった。

祭りの滞在時間はどのくらいですか？

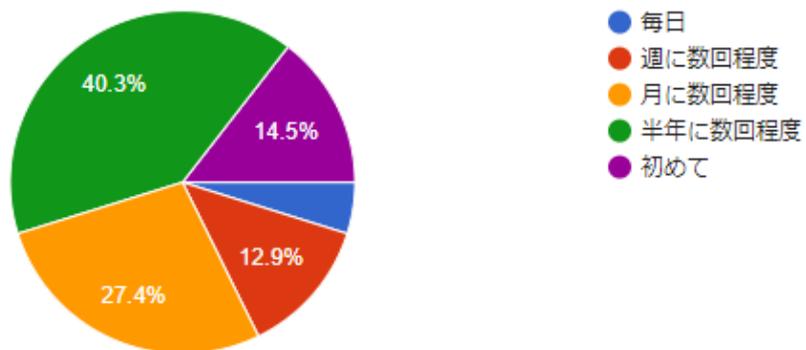
62件の回答



カ アンケート調査において、鶴巻温泉駅を利用する頻度は、「半年に数回」の利用が40.3%、「月に数回」利用が27.4%となった。イベント等の催しを目的に訪れる人が多いと推測される。

鶴巻温泉駅を利用する頻度を教えてください

62 件の回答



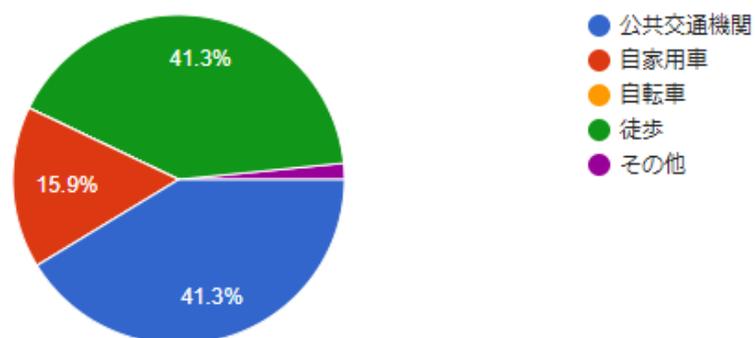
キ 会場全体（駅前広場会場を含む）での来場者数は7,000名と、例年の来場者数5,000名と比較すると2割増となった。

ク 実行委員会が企画運営した謎解きクイズラリー（会場内5か所に設置されたクイズに答える。）は、準備した100枚の回答用紙の配付が、1時間程度で終了し、開始から3時間で景品の進呈が終了。

ケ アンケート結果から、公共交通機関および徒歩での来場がともに、41.3%となり、自家用車での来場は15.9%であった。

どうやって来ましたか？

63 件の回答



(2) 公共施設活用

ア 弘法の里湯の来館者は、大型連休中ということもあり、登山客の来館を多く見込んだものの、790人と平均程度であった。前年比82%となり、休日の入館者数の平均以下の結果となったが、祭りが弘法の里湯を利用するきっかけとなった人もいたことから、にぎわいの相乗効果があったと考える。

前日の28日日曜日の来館者は1,176名となり平均より34%多い結果となった。

また、弘法の里湯駐車場を1日利用停止とし、イベント会場としたところ、特に混乱や苦情はなかった。

令和6年	入館者数	令和5年	入館者数
4月27日(土)	591名	4月29日(土) ※祭り開催日	963名
4月28日(日)	1,176名	4月30日(日)	496名
4月29日(月) ※祭り開催日	790名		

入館者数土日平均 R5 : 789名

R6 : 880名

イ 宮永岳彦記念美術館市民ギャラリーで行った、ワークショップの参加は97名となり滞在時間の増につながった。また、同美術館常設展示室の来館者数は、前年と比較して約2割増となり、相乗効果があった。

常設展示観覧者数

日にち(春まつり実施日)	人数
令和5年4月29日(土)	22名
令和6年4月29日(月)	48名

※文化振興課より提供

(3) 休憩場所の増設

例年の祭りでは、北口広場周辺のマンション敷地内への立ち入りに加え、道路へのポイ捨て等が目立ち、対応に苦慮されているとのことであったが、休憩場所とゴミ収集所を増設したことで、今年はそのような行為はなかった。



7 会場別考察（出店者の意見等）

(1) 弘法の里湯

ア 入館者からは、「里湯は知っていたが入ったことがなかったので、今回イベントに来たついでに入浴してみた」、「弘法山の帰りに立ち寄った。イベントが賑やかでよい」、「利用者が多くゆっくり入れない」等の意見があった。

イ 館内テナントのおみやげ処「やまなみ」からは、「お店を見に来られるお客様は多かった。」、「売上の的には通常の土日と同様だった」との意見があった。

ウ 「弘法の里湯」からは、駐車場を全て利用不可としたが、利用者の大幅な減少は見られず、例年の土日程度の入館者数となった。

エ 全体として、当日の来館者等への聞き取り結果などにより、社会実験はおおむね好評、好印象であった。にぎわいづくりのほか、足湯来場へのきっかけづくり、里湯の認知度向上、親近感の醸成が図られたことが伺え、今後の集客につながる取り組みであったと評価できる。

また、上記の効果は、社会実験が地域イベントと同日に実施された効果によるところが大きいと思われる。社会実験において弘法の里湯の果たした役割については、主催者の評価を待ちたい。

(2) 弘法の里湯 第1駐車場

ア 駐車場に出店した店舗（キッチンカー）からは、イベント開始前はメイン会場から離れているため、来客が見込めるか不安の声もあったが、結果想像以上の来場があり売上もよかったとの意見あり。

イ 木くずのプールは、木材の香りと感触を全身で感じている子どもが多く、1日を通して人気のあるブースとなった。

ウ 人工芝を敷き、くつを脱いでくつろげるエリアとしたが、利用方法が伝わらず、利用者は見られなかった。

エ 休憩場所は、1日を通して利用者が途切れずいて、飲食や会話を楽しんでいる様子が見られた。



(3) 温泉横丁

ア 弘法の里湯館内テナント「一の屋鶴寿庵」が出店。出店者からは、「売上の的には通常の土日と同程度だったが、悪い印象はない。来年やるならまた参加したい。」、「駐車場での営業も検討したが、保健所の許可の関係で、横丁で提供する形とした。」、「人手が少なく、館外からの入店区画とイベント用飲食の両方はできないと思い、お客さんの持ち込みを危惧から館外からの入店区画は閉鎖した。」、「メニュー（生ビール、からあげ）が駐車場のキッチンカーと重複したため、お客をつかみきれなかった。」、「駐車場で営業したいが、保健所の許可の問題と雨が心配。温泉横丁にお店がもっと多く出れば、賑やかになってよいのではないか。」との意見があった。

イ 畳ベンチを7台設置。常に利用者（座っている人）がいる状態だった。

ウ 横丁で確保できる幅（約 2.8m）では、有効幅員や出店者の作業スペース、物品管理場所等の確保に課題があるため、テントでの出店は難しいことが分かった。



(4) 宮永岳彦記念美術館

ア 市民ギャラリー

ワークショップは7ショップの出店により実施し、延べ97名の参加があった。出店者からは、「楽しい時間だった」、「創作品の完成を喜んでもらえた」、「事前周知や施設前での広報活動がもう少しできるとよかった」等という意見があった。ワークショップ代表者は鶴巻地区出身の方で、今後も地元でのイベントには積極的に参加したいとの意向であった。

ワークショップ体験者数	97名
-------------	-----



イ 常設展示室

市民ギャラリーでのイベントがある日においては、常設展示を訪れる人が多くなる傾向があることから、積極的に市民ギャラリーを使用する取り組みを行うことで、美術館の利用率向上にもつながると考えられる。

ただし、当該施設の運営を担当する文化振興課では、市民ギャラリーについてはこれまで通り「文化振興」での利用を伸ばす意向である。

(5) 宮永岳彦記念美術館駐車場

出店者	秦野市豊工業組合・根倉たたみ店
-----	-----------------

秦野豊工業組合が、畳の啓発を目的に出店。駅前広場から弘法の里湯や温泉横丁につながるエリアとして、来場者に会場の連続性が伝わった。

出店者からは、「組合としての出店は初の試みだったが良い機会となった」、「綿菓子を購入するために並んでいた家族が畳も見えてくれた」との意見あり。



(6) つるまき北公園

つるまき北公園では、子ども向けの体験コーナーとして丸太切り体験とカプセルトイを実施。

丸太切り体験者数	120名
カプセルトイ体験者数	約150名



8 来場者感想・意見等

- (1) お疲れ様です。関係者の皆さまありがとうございます。
- (2) とても楽しかったです！
- (3) 例年よりも会場が増えてやる気を感じました。少なからず訪れた人も感じていたと思います。
- (4) 皆さんで工夫して協力しながら駅前の公共空間や民間の空間をうまく活用していて大成功ではないでしょうか。毎年のイベントが次は毎月の賑わいになり、日常的な賑わいとなるように工夫して続いていくといいですね。学生たちの活躍の場になると近道でしょうか。
- (5) おもしろかった。楽しかった。屋台とかがたくさんあって嬉しかった。
- (6) 会場のスペースがもう少し広いと良いです。楽しかったです。
- (7) めちゃくちゃ楽しく、人も丁度良かった。地産地消のものがあると消費につながると思った。
- (8) 回遊性があってとっても良いと思います。
- (9) 観客席のスペースを広げたら盛り上がるのでは？
- (10) とても盛り上がっており楽しかったです。規模がより大きかったらもっと人が来そうだなと感じました。
- (11) 楽しめました。ありがとうございました。
- (12) 屋台の値段がとても良心的で嬉しかったです。
- (13) 長時間見ていないのであまり書けない。以前よりかなりにぎやかな祭りになって来ている。駅南側もうまく利用したイベントが出来たらと思う。



9 次のステップへの提案

(1) 弘法の里湯駐車場を活用した地元店舗の定期的な出店を検討

駐車場を閉鎖することによる混乱がなかったこと、来場者のアンケート結果から、今後も里湯駐車場を活用した事業を望む意見があること、また、今回出店した店舗からも、今後の出店希望があること等から、定期的かつ継続的に里湯駐車場を活用した出店を検討する。

また、出店は地元の店舗を中心とし、地域の人や里湯利用者に地元個店をPRする機会とし、地元店舗への誘客につなげていく。

運営は、里湯と連携して地元商業者が主体となることが望ましい。

(2) 宮永岳彦記念美術館市民ギャラリーの活用拡大を検討

今回の検証では、施設本来の目的とは異なる活用をしたが、市民ギャラリーを利用した人や、祭り来場者が常設展示室に足を運ぶ流れができたことから、美術館の周知及び活用拡大につながる相乗効果があった。

今後については、講習会や講演会の開催施設としての利用や図書と触れ合う機会の創出、集会施設といった、地域のコミュニティ拠点としての活用等、多様な活用目的のニーズについて、さらに調査する必要がある。